



日進市「道の駅」

Nisshin Michi-no-Eki Project



Nisshin Michi-no-Eki Project

防災機能

+

情報発信
機能

地域連携
機能

休憩機能

「道の駅」計画地の位置

「道の駅」計画地は、日進市のほぼ中央に位置する尾三消防本部日進消防署より、主要地方道瀬戸大府東海線を挟んだ西側付近（本郷町前田周辺）に計画している。

【位置図】



日進消防署より計画地を望む



「道の駅」の特徴

道の駅「(仮称)につしん」(愛知県日進市本郷町)

地域福祉(子育て支援)

防災・減災

農業振興

市民まつり等

開駅予定年度

平成33年

- 日進市は、子育て世代を中心に人口が増加しており、平成72年まで増加すると推定されている。広い駐車場を備え、気軽に車で立ち寄りやすい道の駅に子育て支援機能を持たせ、情報発信能力の向上や子育て支援ニーズ拡大への対応を図る。
- 日進市は、南海トラフ地震の防災対策推進地域に指定されており、人命救助活動部隊の拠点を第2次緊急輸送道路沿いに移転することで、より効果的かつ効率的な防災体制の充実を図る。
- 農業振興の推進を目指す「田園フロンティアパーク構想(基本計画)」の拠点(農業体験施設)に隣接して整備することで、相乗効果を図る。
- 「道の駅」で、イベント機能を集約した一体感のあるイベントの開催により、市内外への魅力発信につながるとともに市全体の活性化に寄与。

- 設置者：日進市
- 路線名：主要地方道瀬戸大府東海線
- 整備手法：一体型
- 全体面積：約20,000㎡
- 基本計画：平成30年2月策定

【主な整備イメージ】

- 地域福祉(子育て支援)
子育て支援施設(屋内施設・屋外広場)、公園施設
- 防災・減災
人命救助機能の移転、防災ヘリポート、防災倉庫
- 農業振興
「田園フロンティアパーク構想(基本計画)」との相乗効果
- 市民まつり等
「道の駅」での市民まつり等のイベントの開催(イベント開催の可能性分析を整理)



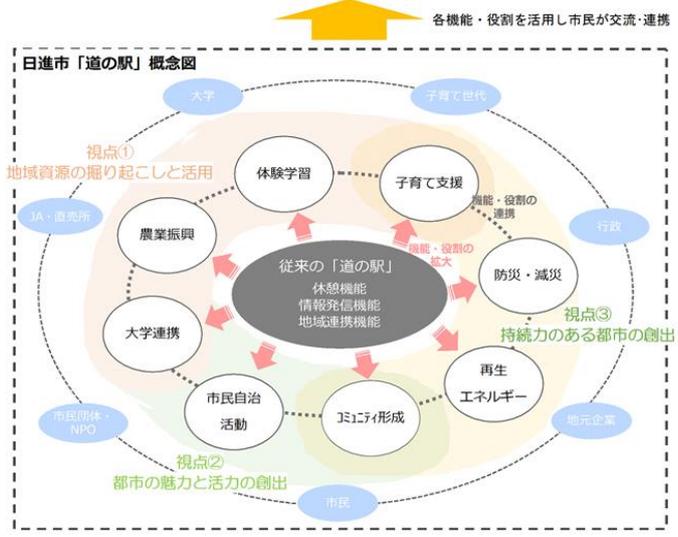
整備コンセプト

整備コンセプト

市民が集い
にぎわい 成長し
都市をデザインする
「道の駅」

- 農産物直売・物販施設、コミュニティ・交流施設等を有する「道の駅」では、子育て世帯、学生、NPO等、様々な人たちが集まります。また、農業体験施設が隣接しており、農業団体等の人々が集まる場にもなります。さらに、道路休憩機能として多くの人々が集まります。
- これまで、子育て支援、防災・減災、農業振興等、それぞれで集まって実施していた活動を「道の駅」で行うことにより、容易に情報発信できるようになり、情報交換や交流・連携の促進が期待できます。
- 情報交換や交流・連携が進むことで、大学連携や体験学習等の要素も加わり、さらに市民が集い、にぎわい、「道の駅」を通じて、市民、地域、コミュニティ、大学が主体的に関わり、新しい活動や魅力が生まれ、市民自治活動の発展につながります。
- そして、「道の駅」での学びや市民自治活動がまち全体に広がり、まちが成長していきます。市民が都市をデザインする「道の駅」を目指します。

「道の駅」の整備コンセプト概念図



重点的に取り組むべき地域課題

道の駅で重点的に取り組むべき地域課題は次の4つ。これらの地域課題を、日進市が現施策を進める中で道の駅整備にあわせて解決していきたいと考えている。

「道の駅」で行う重点的に取り組むべき地域課題への対応

地域課題① 子育て支援

主な整備内容イメージ

- ・子育て支援施設（屋内施設・屋外広場施設）
- ・公園施設

地域課題② 防災・減災

主な整備内容イメージ

- ・人的救助機能の移転
- ・防災ヘリポート
- ・防災倉庫

地域課題③ 農業振興

- ・「道の駅」を既計画である田園フロンティアパーク構想（基本計画）の拠点と隣接させることで、田園フロンティアパーク構想（基本計画）をより推進させる

「道の駅」が整備されることにより間接的に取り組むべき地域課題への対応

地域課題④ 市民まつり等

- ・「道の駅」での市民まつり等のイベントの開催可能性

1. 「子育て支援」「防災・減災」「農業振興」等の地域課題の解決を図るとともに、これからのまちづくりに向けた地域の拠点となる「道の駅」を目指す
2. 「道の駅」の整備を契機に、さらなる市民間の交流や機能連携が図られることで都市活動やにぎわいが創出され、持続的なまちの発展と活力につながっていく、市民ベースの都市型の「道の駅」の形成を目指す

地域課題①：地域福祉（子育て支援）

※基本計画より抜粋。詳細は基本計画を参照

現状

- ◆子育て世代を中心に人口が増加しており、平成72年まで増加すると推定されている
- ◆地域での子どもの遊び場が少なく、広場・公園等の整備の要望が高い

課題

- 子育て支援ニーズ拡大への対応が必要
- 子ども・子育て世帯が増加しているのに子育て支援施設、公園が少ない

問題点（現施策進行上の問題点）

- 子育て支援施設の問題点
→子育て中の親子が気軽に集まって相談できるような場所が限られている
- 子育て世代に対する広場・公園等の問題点
→公園そのものの不足
→車で気軽に行ける広場・公園が少ない
- 福祉会館による子ども支援の問題点
→利用時間、利用規則等に制約がある



子育て支援施設イメージ

「道の駅」における方向性

- ①駐車場の広い子育て支援施設と広場・公園等を設置する
- ②道の駅で「出張広場」を開催し、子育て相談等の機会を増やし、子育て世帯の孤立化を防ぐ
- ③気軽に車で寄りやすい場所に子育て支援施設と公園を設置し、利用者を増やし情報発信能力を高める
- ④土・日曜日にも出張相談や情報提供等を行えるようにし、多くの市民が利用しやすくなる

※「出張広場」：地域に出向き開催する親子交流の場

※「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

地域課題②：防災・減災

※基本計画より抜粋。詳細は基本計画を参照

現状

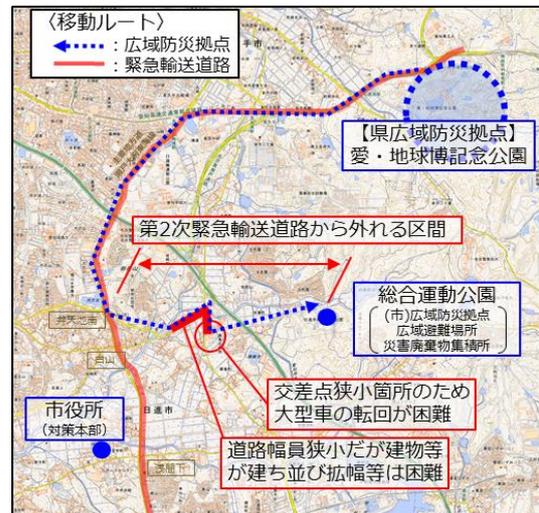
- ◆南海トラフ地震の防災対策推進地域に指定
- ◆防災拠点に指定されている総合運動公園は、高次緊急輸送道路沿線から離れている
- ◆防災倉庫は容量が限られている

課題

- 南海トラフ地震を想定したさらなる防災体制の充実が必要
- 救護所近くに耐震性貯水槽等水源の確保が必要である
- 熊本地震における支援物資の滞留、長期化する避難所体制等、新たな課題への対応が必要

問題点（現施策進行上の問題点）

- 防災体制の整備：総合運動公園の問題
→公園までの経路は、緊急輸送道路から離れ、途中に交差点狭小箇所や道路幅員狭小箇所があり通行困難
→総合運動公園は防災機能が集中し手狭
→公園内では道路幅が狭い等大型車両の進入が困難



「道の駅」における方向性

- ①人命救助機能を総合運動公園から緊急輸送道路沿線の道の駅に移転
- ②道の駅にヘリポートを設置する
- ③道の駅に防災倉庫、耐震性貯水槽を設置する
- ④道の駅で防災啓発を行う
- ⑤防災をテーマに、大学参加型の情報発信、防災学習の場を創出

※「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

地域課題③：農業振興

※基本計画より抜粋。詳細は基本計画を参照

現状

- ◆農家の減少、農地面積の減少、遊休農地が増えている
- ◆市民農園や農業体験のニーズは高く、特に農業体験は子育て世代からの需要が高い
- ◆市民アンケートでは、「農産物直売施設」を求める声大きい

課題

- 新規就農者等後継者を増やしていきたいが、増えない
- 遊休農地を解消していく必要がある
- 農に対する理解向上を図る必要がある

問題点（現施策進行上の問題点）

- 田園フロンティアパーク構想（基本計画）策定後の問題点
 - 農業従事者数が増えないため、事業の計画が進まない
 - 体験の場などの整備を進めようとしても、多くの人を呼び込むことが難しい



「道の駅」における方向性

- ①当面は田園フロンティアパーク構想（基本計画）の休憩施設、管理施設、防災施設、農学校、レストランの施設について、「道の駅」で整備する施設を利用することとし、田園フロンティアパーク構想（基本計画）との一体化を図る
- ②「道の駅」に集まる人に対して、市民農園、農学校、体験農園のPR、参画を促し、田園フロンティアパーク構想（基本計画）の事業を推進させ、新規就農者の育成につなげる

※「道の駅」の整備とあわせて想定される対応の方向性であり、すべてを対応するものではない

地域課題④：市民まつり等

※基本計画より抜粋。詳細は基本計画を参照

※市民まつり（産業まつり）、にっしん夢まつりについては、他の施策の課題・対応の方向性としてまとめている地域課題（子育て支援、防災・減災、農業振興）とは異なり、具体的なイベント行事の現状と問題点を整理しているものであり、「道の駅」整備とあわせて対応できるかの可能性について分析するものである

現状と問題点

- 市役所では、市民まつり等多くのイベントが開催されているが、大きなイベントを行うことができる広場がないため、イベント機能が分散化している
- 市役所で行われるイベント時の駐車場が不足している
- イベント開催に伴う交通規制や交通渋滞により、エコドーム・図書館が利用しづらい
- 駐車場がイベント会場となるため、住民票発行等の休日窓口サービスの利用者から「非常に利用しづらい」「利用できない」との声が多い



「道の駅」における方向性

- ①「道の駅」で市民まつり等のイベントの開催が可能となれば、分散化しているイベント機能を集約でき一体感のあるイベントを開催できる
- ②駐車場不足の軽減や利便性向上を図るため、バス発着場をイベント会場近くに配置し、利用しやすく分かりやすくする

「道の駅」に備える機能・施設と規模

「道の駅」に備える機能・施設と規模は次のとおり。

【機能・施設】

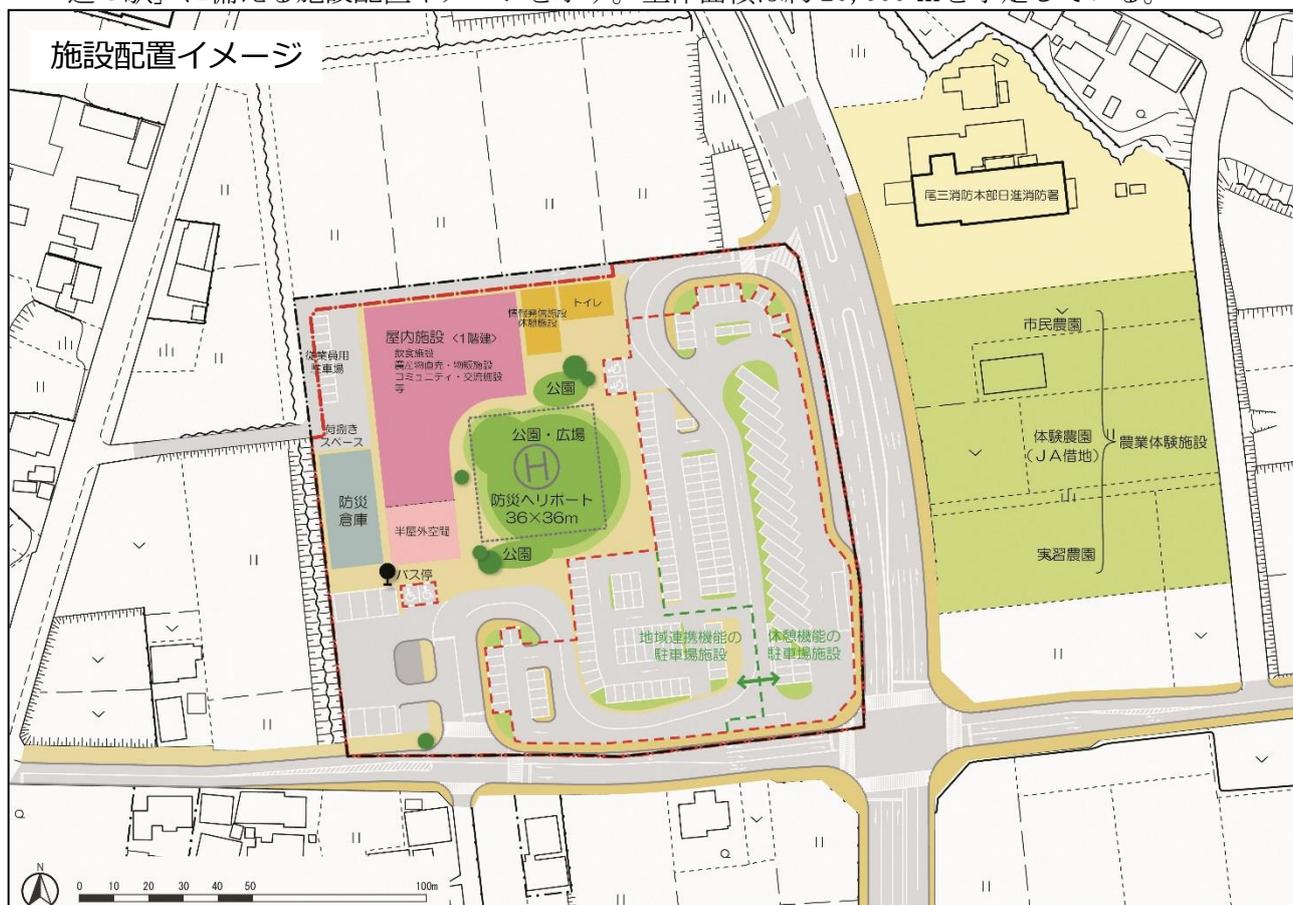


【施設規模】

機能名	施設名	具体的施設名	施設規模(m ²)
休憩機能	駐車場施設	駐車場施設	約5,780
		トイレ施設	約150
	休憩施設	休憩施設	約190
情報発信機能	情報発信施設	情報発信施設	
地域連携機能	駐車場施設	駐車場施設	約2,620
		トイレ施設	約150
	飲食施設	レストラン	約530
		軽食コーナー	
	農産物直売・物販施設	農産物直売	約570
		物販施設	
		バックヤード	
	コミュニティ・交流施設	子育て支援施設(屋内)	約300
		子育て支援施設(屋外)	約1,500
		公園	約300
多目的施設		約200	
DMO活動拠点(事務所)		約100	
管理施設等		約100	
防災機能	防災施設	救助救援場所	駐車場兼用
		防災ヘリポート	屋外広場兼用
		防災倉庫	約500
		耐震性貯水槽	地下施設
		その他施設	—
その他の機能	その他施設	くるりんばすバス停施設	約900
		貯留施設	地下施設
		その他施設(外構等)	約6,110
計		合計	約20,000

施設配置イメージ

「道の駅」に備える施設配置イメージを示す。全体面積は約 20,000 m²を予定している。



※1 今後、道路管理者等の関係機関の調整により、施設配置(案)は大きく変わることがある
 ※2 今後、予定している基本設計の段階で、施設配置(案)は変更となることある

整備・管理運営手法

日進市「道の駅」の整備手法は道路管理者との一体型整備による公設で、管理運営手法は指定管理、運営者は民間事業者を予定している。

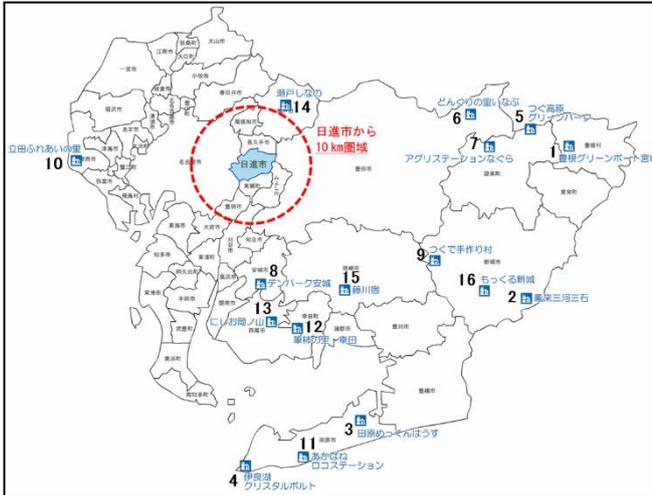
【日進市「道の駅」の整備・管理運営手法まとめ】

整備手法		管理運営	
		運営手法	運営者
一体型	公設	指定管理	民間事業者

「道の駅」の整備状況

現在、全国の「道の駅」登録数は1, 145駅、愛知県内の「道の駅」登録数は16駅である。

〈全国「道の駅」登録数〉
1, 145駅(平成30年4月25日時点)



【愛知県内の道の駅】

番号	駅名	市町村名	登録年月日
1	豊根グリーンポート宮嶋	豊根村	H5.4
2	鳳来三河三石	新城市	H5.4
3	田原めっくんはうす	田原市	H5.4
4	伊良湖クリスタルポルト	田原市	H6.8
5	つく高原グリーンパーク	設楽町	H6.8
6	どんぐりの里いなぶ	豊田市	H10.4
7	アグリステーションなぐら	設楽町	H11.8
8	デンパーク安城	安城市	H12.8
9	つくで手作り村	新城市	H13.8
10	立田ふれあいの里	愛西市	H17.8
11	あかばねココステーション	田原市	H21.3
12	筆柿の里・幸田	幸田町	H21.3
13	にしお岡ノ山	西尾市	H21.7
14	瀬戸しなの	瀬戸市	H22.8
15	藤川宿	岡崎市	H24.9
16	もっくる新城	新城市	H26.10

参考資料

- 全国的に人口減少期を迎える中、本市の総人口（国勢調査）は、昭和55年から平成27年までの間に、約2.1倍の87,622人にまで増加している
- 平成30年2月には、人口9万人を達成した。また、他市からの通学を含む大学生数は約1万8000人に上る。
- 将来人口推移をみると、平成72年には昭和55年と比較して約2.5倍以上の110,764人になると予測されている



- 日進市には、5つの大学（愛知学院大学、名古屋外国語大学、名古屋学芸大学、椋山学園大学、名古屋商科大学）が立地する文教都市である（青枠）
- 日進市に隣接して愛知淑徳大学（長久手市）が立地している
- 平成21年度から市内の大学を中心に9大学と大学連携協力協定を締結し、公開講座や委託事業など連携事業を進めている



※中部大学と協定を結んでいるが、春日井市にあるため、右図には記載していない。市内に付属校の中部大学第一高等学校があるため図上に記載した。

日進市における様々な地域活動等

※基本計画より抜粋。詳細は基本計画を参照

●NPO 法人ファミリーステーション Rin

「Rinのおうち」を拠点に、主に市内の0～2歳児を持つ子育て世代を対象に子育て支援活動を行っている。
また、平成19年度からにっしん子育て総合支援センターの指定管理者として、施設の管理・運営を行っている。



●NPO 法人日進野菜塾

2005年から日進市において田んぼ、畑を中心に農と自然の体験、食育等の活動を進めるNPO法人。現在、農業体験農園の運営、朝市の事務局、オーガニック野菜の販売等を手がけ、都市住民に「農ある暮らしの楽しさ」を提案している。



●日進絆子ども食堂 (いきいき塾 NPO 絆)

日進絆子ども食堂は、平成28年度に活動を開始。市民や市内事業者からの食材提供、大学生のボランティアスタッフ等の協力を得ながら、子どもの居場所づくりや保護者のコミュニティづくりを目指している。



●にっしん市民まつり (産業まつり) 等

「にっしん市民まつり」日進市の秋の祭典。その中心となる「産業まつり」は市内商工業や農業振興を目的に、市内飲食店の屋台や農産物の販売等のブースが出店され、毎年、多くの市民が来場している。

【来場者数】

No.	イベント名	主催	開催時期	来場者数
1	にっしん夢まつり	商工会・市	9月	90,000人
2	市民まつり (産業まつり)	市 (JA・商工会)	11月	42,000人

●にっしん版DMO構想

日進市では、観光まちづくりに向けて、平成30年3月28日に、にっしん観光まちづくり協会を設立。今後、DMO※設立に向けて取り組んでいく予定。

※DMO：地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりのかじ取り役となる組織のこと



DMO活動内容PRイメージ

●田園フロンティアパーク構想 (基本計画)

田園フロンティアパークは、拠点施設と拠点農園からなる。拠点施設は、レストラン、産地直売所、食品加工所、農学校、農業リサイクル施設、防災倉庫などを整備する。また、拠点農園は、市内の農地を活用して、農家と協力しながらレクリエーション農園・実習農園・市民農園・体験農園などを整備する。



自治体名：日進市

担 当：建設経済部 都市計画課 基幹施設整備室

電 話：0561-75-2706

ファクス：0561-73-1871

Eメール：kikanss@city.nisshin.lg.jp

